



TICOの趣旨に賛同し、支え応援し続けて下さる皆様に心から御礼申し上げます。おかげさまで小さな規模ではありますが着実に成果を上げつつあり、2010年度も充実した活動を展開することができました。

ザンビアでは3年間実施してきたプライマリーヘルスケア・プロジェクトが無事終了し、新たに安全なお産に関わるプロジェクトがスタートしました。人口密度が低く交通の便も悪い農村地域で、母子を守るためのチャレンジが行われています。また、コミュニティスクールの建築も進み、こどもたちが新しい校舎で勉強する日も間近です。引き続き環境に配慮した農業、安全な水／衛生、農村開発ローンのシステム改善などWAHE（ワヘ）プロジェクトとしてより総合的な取り組みを図っていきます。

カンボジアでは、前年度から作成を手がけてきた救急ケアのガイドラインを完成させ、全国配布することができました。啓発活動の成果も少しずつではありますが見受けられるようになってきています。今後、医療従事者の交流を続け、事業が自立的に発展していくようサポートしていきます。

国内では、これまでのように地球人カレッジ、講師派遣、学生の合宿受け入れなど、地球市民教育を進めてきました。昨年度より取り組んできた国内体制の強化は、これまでの活動の評価や問題点の整理を行い、国内事業の5カ年計画を策定、組織運営の見直しや改善に努めました。より徳島という地域に根ざして次年度も活動していきます。

国連が提唱するミレニアム開発目標（MDGs）は2015年までに以下の8つの項目を達成すると決められています。

- ①1日1ドル以下で暮らす人、飢えた人を半減させる
- ②すべてのこどもに初等教育を普及させる
- ③すべての教育レベルで男女格差を解消する
- ④こどもの死亡率を1/3に減らす
- ⑤妊産婦死亡率を1/4に減らす
- ⑥HIV/エイズ、マラリアなどの感染症を減らす
- ⑦環境、生物多様性を確保する
- ⑧持続可能な開発を促進する

TICOとしても、微力ながらこの目標に近づけるよう、こどもたちの教育や妊産婦死亡率の改善、持続可能な循環型社会を目指し、国内外で活動に邁進していきます。変わらぬ皆様からのご理解ご協力をいただきたく、よろしくお願い申し上げます。

特定非営利活動法人 TICO(ティコ)

Tokushima International COoperation

2010年度 年次報告書

TICO(ティコ)はアジア・アフリカの
地域住民の自立を支援します

日本においては、人々が地球規模で考え行動
するきっかけや場を創ります



ザンビア事業報告

アフリカ南部の内陸部に位置するザンビア共和国。主な活動地であるチボンボ郡は、首都ルサカから北東へ約100キロメートル行った先にあります。英語で水、農業、医療・健康、教育の頭文字をとって名付けられたWAHE(ワヘ)プロジェクトを活動の軸に、持続可能な干ばつに強い村を目指した、総合的な農村開発、自立支援を行っています。



中央州チボンボ郡チペンビ

中央州チボンボ郡モンボン

首都ルサカ

[ザンビア共和国地図]

1-1. 干ばつに強い村づくり WAHE (Water, Agriculture, Health, Education)

中央州チボンボ郡チペンビ

(1)事業の背景・目的

<総合的なアプローチ「WAHE(ワヘ)」>

2002年、ザンビアは大規模な干ばつに襲われ、住民は飢餓に苦しみ、来年蒔くために取っておかねばならない種まで食べ尽くしていました。TICOは南部州において飢餓対策緊急援助を行いました。飢餓が引き起こされる根本には、単一の原因ではなく複雑な要因が絡み合っているという結論に至りました。そこから、WAHE(水: Water, 農業: Agriculture, 医療・健康: Health, 教育: Education)の4つの分野を中心に、干ばつに強い村を作っていこう、農村の暮らしを総合的に良くしていこうというコンセプトのもと、WAHE(ワヘ)プロジェクトは開始されました。

チペンビ地域においては、特にコミュニティー自身が自立的に生計を営んで行けるよう、小規模の資金支援をすることでビジネスを立ち上げたり(農村開発ローン)、農業活動の充実を図ったりしています。また、より環境にやさしい農法の導入を目指し、チペンビ農業大学と連携し、近隣農家へ技術支援を実施しています。

(2)活動内容

1) 農村開発ローン支援

▷対象: チペンビ地区周辺住民グループ

2) 家畜薬浴槽リサイクル支援

▷対象: チペンビ地区周辺

3) 環境保全型農業推進

▷対象: チペンビ地区周辺住民

(3)本年度の成果

<3グループがローン完済>

農村開発ローンは、1グループが乾燥魚の販売活動の資金を得るためローンを締結、通常の返済期限を大幅に早めて年度内に完済しました。前年度にローンを締結したヤギ

の飼育・販売を行っていた2グループも完済し、返済中のグループはゼロになりました。さらに現在2グループが審査を待っている状態です。

昨年度より返済が遅延していたチレングワレサ・グループ(養豚事業)については、グループメンバーの変更や返済意志の消失などの理由で今後も返済は困難だと判断し、事業を中止しました。

家畜(主に牛)薬浴槽リサイクル支援においては、老朽化した薬浴槽の修復費を、無利子のローンという形で実施しました。無事に完済され、現在も自主運営を続けています。

(4)課題と2011年度の見通し

<ローン事業の見直し>

農村開発ローンに関しては、新規案件の募集・審査は縮小し、過去の事業の運営方法から事業の妥当性や持続性、効率性を再評価し、事業の継続・変更を検討するための情報収集をしています。

▶元気に小屋を走り回るヤギたち



◀集会のようす

▼乾燥魚を手にするグループのメンバーたち



<2010年度の主な成果>

・デモンストレーション農場開始

環境保全型農業を導入した、デモンストレーション農場を開設しました。
(地球環境基金助成事業)

・安全なお産支援グループ (SMAG)が始動

妊産婦の健康を守るための新たな事業が開始しました。
(JICA草の根技術協力助成事業)

・学校建設着工

地域住民で造るコミュニティースクール (小学校) の建設に、着工しました。
(公益社団法人セカンドハンド助成事業)

【ザンビア事業従事者】

吉田純 (事務所長)

吉田修 (プロジェクトマネージャー)

田淵幸一郎 (保健医療専門家)

山元香代子 (保健医療専門家)

酒井浩子 (保健医療専門家)

黒田晶子 (業務調整員)

滝川麻衣 (業務調整員)

モーリス・マーフィー (建築専門家)

1-2. 干ばつに強い村づくり ～農村地域での持続可能な 環境保全型農業推進事業～ WAHE (Water, Agriculture, Health, Education)

【地球環境基金助成事業】

中央州チボンボ郡チベンビ

(1)事業の背景・目的

ザンビアでは、1960～90年代、社会主義体制の下、農業優遇政策が取られていました。農民の化学肥料や農薬、ハイブリッド種子への依存度が高まり、さらに政府の高額買取り政策によりメイズ (トウモロコシ) 偏重型農業となりました。それにより現在では化学肥料の多用とメイズの連作による地力の低下が見られる一方で、貧困農家は高額な化学肥料が買えないために農作物の収量が低下しています。

2003年よりチベンビ農業大学と連携し、地元の小規模農民を対象に有用樹木やマメ科植物の利用など、より環境にやさしい農法の導入を目指し、近隣農家へ技術支援を実施していきました。しかし、新しい知識・技術を農民たちが自身の畑で実践するには失敗したときのリスクが大きく、普及は限定的と言わざるを得ませんでした。そこで、2010年にデモンストレーション農場を建設し、地域住民にリスクを負わせることなく実践的な知識や技術の普及の場を提供する活動を始めました。

(2)活動内容

環境保全型農業推進

▷対象：チベンビ地区周辺住民

(3)本年度の成果

<環境保全型農業推進/デモンストレーション農場>

食の安定的確保に焦点を置いた前年度までのアグロフォレストリー事業から、化学肥料を減らし堆肥による土づくりを取り入れるなど、より環境に配慮した環境保全型農業 (コンサベーション・ファームिंग) を推進する形に移行しました。環境保全型農業実践の場として50m×50m規模

のデモンストレーション農場を開墾し、メイズ、豆類、レイプ (西洋油菜) 等5種を栽培し始めました。農場で必要な農作業には実地訓練として地域の農民が参加し、ザンビアのコンサベーション・ファームING・ユニット (以下CFU) という農業系NGOと協働で、有機・化学肥料の効果的使用法や輪作などの技術を推進・教示しています。

有機肥料について説明する様子



本年度はCFUから講師を招き「耕作」、「種蒔き」、「土地整備」、「ムサンゴ植林」の計4回のデモンストレーションを実施し、延べ62名が参加しました。

また、日本から農業専門家を招き、「化学肥料の効果的使用方法」「堆肥の作り方」などに関するデモンストレーションを行いました。

なお、本年度は独立行政法人環境再生保全機構の地球環境基金助成事業として実施しました。



日本人農業専門家に指導を受ける農家たち

(4)課題と2011年度の見通し

<風土に適した農法へ>

環境保全型農業においては、現時点では情報が不足しており適切な知識・技術を直接農民に提供することは困難です。今後はチベンビ農業大学やCFU及び、他の農業系団体と関係をより強化し、ザンビアの風土に適した環境保全型農業の在り方についての情報収集を継続していきます。また、農民同士の知識・技術交流を促し、農民自身が主体となって活動する場を提供、体制を整えていきます。

2-1. 農村部保健医療改善事業 ～チボンボ郡農村地域プライマリー ヘルスケア・プロジェクト～ WAHE (Water, Agriculture, Health, Education)

【JICA草の根技術協力事業】
中央州チボンボ郡モンボシ

(1)事業の背景・目的

＜保健医療、環境の改善を目指して＞

チボンボ郡モンボシは、首都から約100キロメートル北に位置する農村地域です。自家用車であれば首都からの日帰りも可能な距離ではありますが、幹線道路からはずれており交通の便が悪く、周辺に比べて人口が多いにもかかわらず、医療施設を含む社会資源が乏しいまま発展が遅れていました。

保健医療システムの脆弱さは、乳幼児や妊産婦といった「健康上の弱者」により大きく悪影響を及ぼします。予防接種をしていなかったばかりにその病気で命を落とすことは避けねばなりません。マラリアや下痢といった病気に打ち勝つには、薬だけでなく栄養状態のよい丈夫な体が必要です。病気になったとき、診療所が遠くて早期治療ができなければ、これもまた重症になって命にかかわることになります。ですから日頃から子どもの健康を保つには、妊娠中から母親に正しい保健衛生の知識を身につけてもらうことも必要です。保健医療環境を改善することで、ひいては地域住民全体の保健医療の改善につながるよう、事業を実施しています。

本事業は独立行政法人国際協力機構（JICA）の草の根技術協力事業として、2007年8月～2010年5月までの約3年間で実施されました。

(2)活動内容

＜住民の健康は住民が守る＞

ヘルスポストへの目印



保健医療の施設も物資も人材も慢性的に不足しているザンビアの現状にあって、住民が自らの健康を守るしくみをつくり、これが機能するための最低限の施設・物資・人材を確保することで、持続可能性を担保します。

1) ヘルスポスト（診療所）建設

▷対象：モンボシと周辺9地区の住民2万人

2) 住民保健ボランティア、栄養改善普及員養成

▷対象：モンボシと周辺9地区

3) 基礎的保健知識の普及

▷対象：モンボシと周辺9地区の母親や妊産婦

4) 乳幼児の栄養改善

▷対象：モンボシと周辺9地区の乳幼児

(3)本年度の成果

＜水へのアクセスが向上＞

ヘルスポスト（診療所）の設備強化として、最後の2ヶ月間は専用の井戸を掘削し、安全な水へのアクセスを向上させました。その間、事業実施による成果を計るための最終調査を並行して実施しました。



掘削した井戸

＜早期受診が可能になり、保健知識が普及＞

ヘルスポストの開所から1年と2ヶ月経ち、毎週150名以上の子どもたちが体重測定や予防接種などの乳幼児検診を受けに来るようになりました。けがや病気にかかっても早期受診が可能になり、毎月10～17人の妊婦がヘルスポストで出産しています。



ヘルスポストに検診で集まる親子

村では母親がマラリアなどの病気への対処法や予防法などの健康教育を受けることができるようになりました。こどもたちの栄養状態を改善するための、母親への栄養教室も開催されています。こうした活動を住民ボランティアたちが中心となって実施することで、「住民の健康は住民が守る」活動が確立されるようになりました。



村での乳幼児検診の様子

2010年5月で本事業は終了しましたが、引き続き後述の事業が始まるまでの4ヶ月間、より充実した保健医療を提供すべく、カウンターパートであるチボンボ郡保健局と協議を継続し、看護師の住居など必要な設備の建設をコミュニティとともに進めフォローアップしてきました。

2-2. 農村部保健医療改善事業 ～チボンボ郡地域住民が支える 安全な妊娠／出産の支援事業～ WAHE (Water, Agriculture, Health, Education)

【JICA草の根技術協力事業】
中央州チボンボ郡モンボシ

(1)事業の背景・目的

<さらなる保健医療の改善を目指して>

今後は、先行事業でカバーできなかった妊産婦保健に焦点を当て、モンボシ地域の妊産婦の妊娠出産をめぐる状況が改善し、安全なお産が可能となる環境を整えていきます。

本事業は独立行政法人国際協力機構（JICA）の草の根技術協力事業として、2010年10月～2013年9月までの3年間の予定で実施されます。

(2)活動内容

<安全な妊娠／出産ができる環境を>

- 1) 安全なお産支援グループ（SMAG）養成
▷対象：モンボシと周辺9地区
- 2) 栄養・妊娠・出産についての健康教育
▷対象：モンボシと周辺9地区の妊娠適齢期の女性
- 3) 妊産婦をめぐる保健問題の改善
▷対象：モンボシと周辺9地区の母親や妊産婦
- 4) 産前簡易宿泊所の建設【自己資金対応】
▷対象：モンボシと周辺9地区の母親や妊産婦

(3)本年度の成果

<妊産婦保健の強化研修・養成>

伝統的産婆や住民ボランティアで成る、安全なお産支援グループ（Safe Motherhood Action Group、以下SMAG）を組織するために、34名がメンバー養成研修を受けました。さらに地域で共に活動していくサブメンバー160名も養成され、今後の活動の柱となる人材の育成が始まりました。SMAGはコミュニティで妊産婦保健に関わる様々な保健活動を実施する担い手として、今後の活躍が期待されます。

SMAG研修の様子



村での健康教育の様子

<建築着工>

施設で分娩したいという希望はあっても、陣痛発来後に自宅からヘルスポストまで行くための移動手段の確保が困難なため自宅出産に変更することや、移動に時間がかかりすぎ途中の道端で出産してしまうことが多々見うけられます。そこで、妊婦が陣痛発来前から待機できる産前簡易宿泊所の建設を考えていますが、ヘルスポストには看護師が1名しか駐在していません。いくら住民ボランティアの助けがあるとはいえ、産前簡易宿泊所の開所には増員が必要であり、新しい看護師/助産師を迎えるためには職員宿舎の建築が急務とあって、その建設に取りかかりました。また、住民ボランティアらが月毎のミーティングを行う場所を確保できるよう、ミーティングルーム建築のための屋根とフレームを提供しました。なお、職員宿舎建築資金の一部は、特定非営利活動法人ネットワーク『地球村』よりご支援いただきました。

<フィールド受け入れ>

国際医学生連盟（IFMSA）を始めとする学生や企業、NGOなど、保健医療問題に興味をもつ団体・個人など30名の視察・活動を受け入れました。

(4)課題と2011年度の見通し

養成されたSMAGメンバーの体制を整え、メンバーの知識を維持、向上していくためのリフレッシュ研修を開催します。また、コミュニティで活動する際に必要な健康教育用教材を補充していきます。

妊産婦の相談にのるSMAGメンバー



活動が進むにつれて施設分娩数が増加することが予想されるため、それに対応するべくヘルスポストでは看護師/助産師スタッフの増員が急がれます。職員宿舎を早急に完工し、スタッフを増員、産前簡易宿泊所の着工へと進めていきます。

モンボシの多くの地域で課題となっている、妊婦の自宅からヘルスポストまでの移動手段に関して改善策を検討していきます。

3. 農村部教育機会向上事業

WAHE (Water, Agriculture, Health, Education)

【公益社団法人セカンドハンド助成事業】

中央州チボンボ郡チベンビ

(1)事業の背景・目的

<教室や学校の設備を支援>

干ばつに強い村の未来を担う子どもたちへの教育は大変重要です。しかし、公立学校の数に限られており、定員オーバーで学校に通えない生徒が数多く見受けられます。初等教育を受ける機会を与えられず、一日の大半を水汲みや家族のための仕事に費やすことも珍しくありません。そこで、地域の人は地元コミュニティスクール（地域住民が自主運営する学校）を立ち上げますが、教室、トイレ、黒板、机・椅子など学校の設備は不備・不足しており、教師の数も不十分であるところが多いのが現状です。農村地域の教育現場の改善を目指し、学校の整備やハード面を支援しています。

(2)活動内容と成果

<コミュニティスクール建設開始>

本年度より公益社団法人セカンドハンドから資金協力を受け、モンボシ地区ンコンジェ村にてコミュニティスクールの建設を始めました。地元の大工、レンガ工を採用すると共に、建築専門家から建設に関する指示を受け、住民が主体となって小学校の建設を行なっています。校舎2棟、トイレ、教師の家の修繕を支援することが決定していますが、本年度は1棟目の校舎建設を実施しました。



建設のための砂運びやれんがを作る様子

(3)課題と2011年度の見通し

<建設竣工>

住民主体の建築作業は、住民自らが当事者意識を持って

取組む点では高く評価できますが、なかなか足取りも揃わず多くの時間を要することも事実です。子どもたちが新しい校舎で勉強を始められるよう建設の速度をあげるため、建設作業員数を増やし、次年度内にはンコンジェ・コミュニティスクールの建設を竣工させます。

また、小学校での児童の衛生環境改善に関して、現地のニーズを調査し、優先地域の選定を行なっています。



校舎

4. ンゴンベ貧困地区民生改善事業

ルサカ市ンゴンベ地区

(1)事業の背景・目的

1997年7月よりルサカ市に多数存在するコンパウンド(低所得者層居住区、貧困地区)の1つであるンゴンベ地区において、子どもたちの栄養改善を目的として事業を実施してきました。しかしこの目的を達成する為には貧困を含む社会的要因が大きく絡んでいることから、2000年より子どもの栄養状態改善及び地域社会の特に女性の能力開発を目的とした民生改善プロジェクトへと発展し、現在に至ります。



洋裁教室の様子

(2)活動内容と成果

<運営資金支援>

ンゴンベ地区の女性住民へ、洋裁や栄養教室を通じた技術移転を実施してきました。それに伴い、教室に通う母親たちが働きに出ている間、子どもを預かってくれる場所がほしいとの要望を受け開始されたコミュニティスクール

(地域住民が自主運営する学校)は、今では保育所から小学校7年生までを受け入れるほどに大きく成長しました。現在は、そこへの運営資金の支援を行っています。資金の支援とはいえ、自らドナーを探してきたり授業費を徴収するなどし、自分たちで運営管理を行うことにより、毎年支援額は減ってきています。

授業風景



▶ 海外から来る訪問・視察を受け入れている



<配車支援>

また、彼らが独自に実施している洋裁教室の作品販売など、所得創出活動(以下IGA)、文化祭等の学校行事の実施や卒業試験会場までの送迎、必要な物資の運搬作業を行うためのトラック配車等の不定期な支援も行っています。

その他、コミュニティースクールの運営委員会のメンバーとして、活動内容や運営方針に係る協議に参加し、間接的な支援を行っています。

(3)課題と2011年度の見通し

引き続き資金面や配車の支援、運営委員会への参加、教育省への学校登録申請にかかる支援を実施していきます。

また、より自立的な活動ができるよう、IGA活動への技術的支援及び他事業との連携橋渡しも進めていきます。前年度実施した栄養教室出張講座は好評を得、他団体からも連携依頼が徐々に増えてきています。次年度はモンボシ地区でも栄養教室出張講座を開催し、若い女性や母親へ栄養や健康に関する知識の普及を拡大させていきます。

5. 辺地巡回診療事業

中央州チボンボ郡チペンビ、モンボシ

(1)事業の背景・目的

<保健医療改善事業をサポート>

2007年からのJICA草の根技術協力事業の支援を受けたチボンボ郡農村地域プライマリーヘルスケア・プロジェクトにより、ヘルスポスト(診療所)の建設や住民保健ボランティア(コミュニティヘルスワーカー、以下CHW)などの養成が実施されました。その結果、ヘルスポスト周辺の人々は以前と比べ、比較的容易に基本的な医療サービスを受けられるようになりました。

しかし、道路などの整備が遅れているために、辺地(遠隔地)に住む人々は数時間から1日かけて、徒歩あるいは牛車などでヘルスポストやヘルスセンター(病院)に通っています。そのような地域を含めて、ヘルスポストやヘルスセンターからスタッフが出張医療サービスを実施していますが、道路事情が悪く中止になることが頻繁にあります。医療機関で受診できない地域に住む人々、特に5歳未満の乳幼児や妊産婦が定期的に基本的な医療サービスを受けられることを目的として、車両によるモバイルクリニック(巡回診療)を開始し、そのシステムを確立していきます。

(2)活動内容と成果

<事業開始準備>

チボンボ郡保健局及びザンビア共和国保健省とモバイルクリニック事業に関する協議を重ね、保健省から事業開始の承認が下りるのを待っている段階です。また、モバイルクリニックに必要な器材をリストアップし、調達できる物品に関しては、徐々に購入を始めて準備をしてきました。

また、担当の保健医療専門家が出張医療サービスに同行した際、必要であれば医療行為が可能となるよう、ザンビアでの医師免許を取得しました。



出張医療サービスを受けるために集まった村の人々

(3)課題と2011年度の見通し

<本格的な稼働に向けて>

保健省からの承認が取り付けられていないため、事業開始に遅れが出ています。更にモバイルクリニックの拠点をどこに置かなど、チボンボ郡保健局との協議が必要です。フォローアップを継続して実施し、次年度には本格的に事業を始められるよう、保健省及び保健局に働きかけていきます。

リテタ郡病院での臨床活動などを通して、病院スタッフ、ヘルスポストやヘルスセンターのスタッフ、CHWなどとの信頼関係を構築し、彼らの協力を得ながら、モバイルクリニックを2-3ヶ所で開始します。



出張医療サービスの様子



カンボジア事業報告

東南アジアに位置するカンボジア王国。ザンビアで成果を上げてきた救急事業の経験を生かし、首都プノンペン市西部地区を中心に2008年より救急医療支援活動を行っています。



首都プノンペン市

[東南アジア地域地図]

1. 低所得者の人々の命を守るセーフティネット強化事業

【JICA草の根技術協力事業】

全国／プノンペン市西部地区

(1)事業の背景・目的

<交通事故による死亡者数の増加を食い止めたい>

急激な経済成長に伴い、首都プノンペン市は人口増加の一途を辿っています。それに加え、廉価で購入できるオートバイ等の二輪車の保有が急速に増加し、交通事情の悪化により交通事故が多発しています。交通事故は、カンボジアにおける死因第1位のHIV/AIDSに次いで多く、大きな社会問題となっています。カンボジア全土で平均して1日4人以上が死亡という深刻な状況であり、近年交通事故数は減少しているものの、死亡者数は依然として増加しています。こういった状況であるにもかかわらず、カンボジアには「119」に連絡すると全国どこでも無料で救急車がかけつけるといった制度が整備されていません。

<一般の住民にも適切な救急ケアを>

また、医療機関においても救急時の対応に関する適切な知識が乏しいという状況であり、一般住民間においても「応急処置」に関する知識がなく、誤った処置により症状を悪化させるなどの状況が生じていました。そのため、特にスラムからの移住者が多く、低賃金の工場などで働くブルーカラー層が多いプノンペン市西部地区の低所得者層の人々が、事故などの救急事案発生時に適切かつ最低限の応急処置を受け、適正に転院・搬送が行われることを目的として事業を実施しています。

本事業は独立行政法人国際協力機構（JICA）の草の根技術協力事業として、2008年1月から3年間で実施され、2010年12月に事業を終了しました。

(2)活動内容

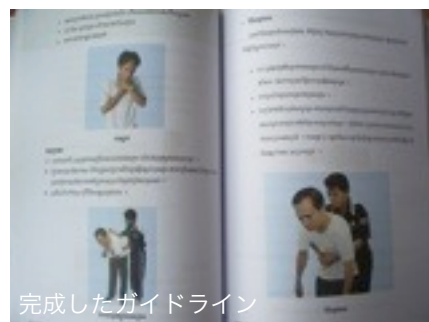
- 1) 救急ケアガイドラインの作成、配布
 - ▷対象：カンボジア全域医療機関
- 2) 医療従事者への研修
 - ▷対象：プノンペン市西部保健局内6医療機関
- 3) 住民啓発活動
 - ▷対象：プノンペン市西部地区住民

(3)本年度の成果

<救急ケアガイドラインが完成、全国配布>

保健省や国立病院職員から構成されるワーキンググループにより、全国の病院・診療所を対象とした救急ケアガイドラインを現状に基づいて開発、前年度に出版の決定まで漕ぎ着けました。

本年度は校正が終了したガイドラインをカラーで1,500部印刷し、カンボジア国保健省に要請してカンボジア全域（20州4特別市の州保健局、保健行政区、州警察局、ヘルスセンター、ヘルスポスト、医療技術者養成学校）に配布することができました。これまでカンボジアには母国語であるクメール語で書かれた救急ケアの教科書がなかったため、このガイドラインを有効に活用し、救急ケアサービス体制を強化していくべくガイドラインを用いた研修も実施しました。



完成したガイドライン

<初期救急委員会が設立>

医療従事者の基礎救急対応研修は、前年度のフォローアップを行い、能力の維持を確認することができました。また、研修を受けた医療従事者や香川県が実施しているカンボジア医療人材育成プログラム（JICA草の根事業）で日本に招へいされた医師を中心に、自主的に初期救急に関する委員会が設立されました。本プロジェクトが終了後も、研修の実施や情報共有をカンボジア人が担う体制ができたことで、自立への道を歩み始めました。

<住民啓発活動の成果が浸透>

地域住民の応急処置に関する知識向上に寄与するため、地域ボランティアを育成してきました。

昨年3月からは、各村の養成した地域ボランティアが主体となり、2地域12カ村の全世帯を対象に「119番通報」や「初歩的な応急手当」に関する知識を住民に普及させることを目的として、啓発活動を実施してきました。通年で合計39回のワークショップを開催し、参加者は延べ1897

<2010年度の主な成果>

・救急ケアガイドライン、待望の印刷完成と全国配布

母国語（クメール語）による救急医療の教科書がほとんどないカンボジアの公立病院・診療所に1,500部を配布する事ができました。

・初期救急委員会設立

日本に招へいたカンボジア人医師たちが中心となって、自主的に初期救急のためのトレーナー委員会を設立しました。

・住民啓発の成果が浸透

計39回の啓発活動により、応急手当の実践例があがってきています。

【カンボジア事業従事者】

大坪加奈子（事務所長）

渡部豪（プロジェクト
マネージャー）

下地美歩子（業務調整員）

田中準一（インターン）

名に上りました。その結果、傷や火傷の手当、窒息時に適切な処置対応ができたといった実践例を確認することができました。



ワークショップの様子

(4)課題と2011年度の見通し

<日本人医療者の派遣、カンボジア人医療者の招へい>

本事業は2010年12月で一旦終了しましたが、引き続き後述の事業と連動して活動を展開していきます。主な内容としては、日本人医療従事者とカンボジア人医療従事者の人事交流です。配布した救急ケアガイドラインが今後も有効に活用されるよう、保健省を通じてモニタリングすること、地域住民へワークショップを開催するなどして啓発活動の成果が定着するようフォローアップしていきます。また、プノンペン市保健局の医療従事者を数名日本に招へいし、よりレベルの高い救急ケア研修も行っていきます。

2. ポチェントン病院救急隊活動支援

【公益社団法人セカンドハンド共同事業】

プノンペン市西部地区

(1)事業の背景・目的

<救急隊の構築、技術向上のために>

先述したセーフティーネット強化事業を補完し、低所得者層の人々も適正な価格で公正に救急車を利用できるようにするため、公益社団法人セカンドハンド（本部・香川県）と共同で、公立病院であるポチェントン病院において救急隊の構築と運営、技術向上の支援を行っています。

これまで国内事業で連携してきたセカンドハンドは、17年間カンボジアにおいて学校建設を通じた教育支援や同西部保健局に対して、妊娠婦死亡率の改善を目的とした産科病棟の建設等の支援を積極的に行ってきた団体です。しかしながら、保健医療の技術面の指導等については経験がないことから、TICOと協力して事業を開始することになりました。これらのセカンドハンドの先行活動に賛同し、

またTICOのザンビアでの救急隊活動支援の経験をさらに活かすために2008年から共同事業を開始しています。

(2)活動内容

1) 救急隊への訓練、研修

▷対象：プノンペン市西部地区ポチェントン病院

2) 道路整備

▷対象：プノンペン市西部地区住民

(3)本年度の成果

<救急隊の訓練・研修>

救急隊の訓練に加え、先述のセーフティーネット強化事業における医療従事者研修に病院救急隊も参加し、気道確保、心肺蘇生、脊柱固定、ケース訓練等の復習を行いました。複雑な症例にも対応できるようになり、能力の維持が見られました。



救急隊訓練の様子

<道路整備完了>

ポチェントン病院前道路整備においては、昨年道路整備を30メートル行いましたが、さらに残りの270メートルを舗装しました。これにより、病院から国道までの道が整備され、救急車で移動の際の振動が軽減し、国道から病院に到着するまでの時間が短縮されました。また、西部保健局、ポチェントン病院だけでなく、近隣の住民からも資金が捻出されたことで、将来道路の修繕が必要となった際に当事者意識を持って取組んでもらえるのではないかと期待しています。

(4)課題と2011年度の見通し

<技術能力維持・向上のための研修>

救急隊の中心となっている医療従事者を日本に招いて研修を行うとともに、現地にも日本人スタッフを短期間派遣して研修を実施していきます。



国内活動報告

ザンビアやカンボジアでの国際協力活動を通して得た経験を、徳島をはじめとする日本の市民と分かち合い、日本人の生活を改めて振り返る機会を提供します。そして、共に持続可能な社会を構築することを目指して、国内でも様々な活動を行っています。



1. 地球人カレッジ

<公開セミナー12回実施>

「地球規模で考えながら地域から活動していく」きっかけになる機会を一地方である徳島で提供すべく、毎月1回「地球人カレッジ」と称したセミナーを開催しています。1997年から続くTICOの原点ともいえる国内活動で、2009年9月からインターネットで中継を開始しています。

【2010年度地球人カレッジ実績】

日時	テーマ	講師
4/30	国際協力初心者のカンボジア体験記	古家聖子 (TICOカンボジア事業保健医療専門家)
6/5	村の人の健康は村で守れる！…ちょっと助けはいるけれど～JICA草の根技術協力事業「チボンボ郡農村地域プライマリーヘルスケア・プロジェクト」最終報告～	田淵幸一郎 (TICOザンビア事業保健医療専門家) 吉田純 (TICOザンビア事務所長)
7/25	HIV陽性率20%を超えるアフリカ、そこで、子どもたちは？	仲佐保さん (独)国立国際医療研究センター・国際医療協力局)
8/21	イラクでわしも考えた ～小児がん患者を見つめ続けて～	井下俊さん (さくら診療所医師、JIM-NET理事)
9/18	イギリスとNZのチャリティーショップ+ちょっとだけ、ザンビア報告	饗場恭子さん (公益社団法人セカンドハンド創設者)
10/16	トイレの窓から世界が見える	小田隆博さん (学校法人盛岡大学 法人本部企画部 次長)
11/14	ニュージーランドはなぜ良い国か ～翻って日本社会は～	饗庭和彦さん (国立大学法人徳島大学 総合科学部教授)
12/25	仏の国の学校の話 ～ミャンマー教員研修の現場から～	山岡智互さん (アイ・シー・ネット株式会社 コンサルタント)
12/26	「だれもが安心してかかれる救急医療」を目指して	大坪加奈子、下地美保子、渡部豪 (TICOカンボジア事務所職員)
1/8	日本の木材消費と世界の森林～フェアウッドにシフトしよう～	坂本有希さん ((財)地球・人間環境フォーラム / Global Environmental Forum)
2/12	「コミュニティ・レストランを創ろう」“おいしく食べ、楽しく働く、くつろぎの場”	世古一穂さん (特活)NPO研修・情報センター代表理事)
3/20	コミレスと国際協力 ～国際協力型コミレス・フェアトレードカフェ&雑貨WAKUWAKUの事例報告から～	林知美さん (外務省NGO相談員、(特活)えひめグローバルネットワーク事務局、フェアトレードカフェ&雑貨WAKUWAKU店長)

2. 講師派遣事業

教育機関、市民団体等へTICOスタッフを講師として派遣し、講義やワークショップを通して地球市民教育を行っています。

【2010年度講師派遣実績】

日時	依頼先	実施内容
4/23	徳島大学	医学概論 (国際協力・医療)
5/12	宮崎大学	地域医療学①②
5/16	吉野川市国際交流協会	カンボジアの常識？非常識？
5/26	種野小学校	ザンビア紹介
7/1	香川大学	国際協力論
8/8	徳島大学	国際協力論
9/25	関西国際保健勉強会ぼちぼちの会	「村人の健康は村で守れる！…ちょっと助けはいるけれど」～徳島発国際協力NGO TICOのザンビアでの取り組み～
11/2	神宅小学校	ザンビアの現状とHIV/AIDSについて
11/14	JICA四国	日本も元気にする青年海外協力隊 in 四国トークショー
11/25	鳴門教育大学	チャレンジ・アフリカ
11/28	木屋平中学校	ザンビアから見えるアフリカの人権
12/2	徳島大学	わが国の国際医療援助活動の動向
12/15	能登町国際交流サロン	タンザニアの紹介とタンザニアから見える日本の問題
12/23	鳴門教育大学国際教育オープンフォーラム インターナショナルフェスタ徳島2010～国際理解教育の姿を探る～	国際理解教区＜地球市民教育（行動、生き方の問題）＞
1/27	鳴門教育大学教員教育国際協力センター	国際教育カリキュラムの開発シニア人材養成の構築
2/20	とくしま県民活動プラザ	NPO自立支援塾「国際協力」
3/2	森山小学校	TICOの活動紹介

3. TICO合宿(青少年育成事業)

<公募合宿開始、年間10回の受入>

吉野川市山川町にある環境に配慮した宿泊施設で、集中的に国際協力や持続可能な循環型社会について学ぶ機会を提供しています。本年度からは個人や一般の方にも気軽に参加していただけるよう公募で合宿を実施しました。

【2010年度合宿受け入れ実績】

日付	参加団体	日付	参加団体
6/5～6	国際医学生連盟	10/16～19	日本外国語専門学校
8/6～8	東海大学	12/18～19	国際医学生連盟
8/10～11	国際医学生連盟	12/26～28	日本国際保健医療学会学生部会
8/21～22	岡山大学	1/8～10	第2回公募型合宿
9/18～20	第1回公募型合宿	2/26～27	国際医学生連盟

<2010年度の主な成果>

・公募合宿を開始

個人や一般の方にも気軽に参加していただけるよう、公募で合宿を実施しました。（9月・1月の3連休）

・TICOユース復活

・鳴門市賀川豊彦記念館がザンビア支援チャリティーウォークを開催

・組織基盤強化への取り組み

組織運営の見直し、改善に努めました。

4. 情報発信、イベント参加等

チテンゲ（ザンビアの布）加工企画やTICOの広報面でのサポート、イベントへの参加手伝いなどを自主的に実施していた学生が中心となり、TICOユースを復活させました。

イベントは毎年恒例の「わらびの会」主催によるゆず狩りに加え、鳴門市賀川豊彦記念館主催でザンビア支援チャリティーウォークを開催していただきました。また、積極的に県外のイベントにも参加し、会員や協力者の皆様にご支援いただきました。

【2010年度イベント参加実績】

日付	イベント名	場所	内容
4/1～30	特別企画展「TICOの支援風景」	鳴門市賀川豊彦記念館	パネル展示 グッズ展示
4/24	チャリティーウォーク	鳴門市賀川豊彦記念館	活動紹介 バザー出店
5/16	吉野川市国際交流協会	吉野川市文化研修センター	バザー出展
6/12～13	アフリカンフェスタ2010	横浜赤レンガ倉庫	活動紹介 バザー出店 WS
6/20	ゆず畑手入れ	木屋平	草刈り 枝の剪定
9/25	多文化共生フェスティバル	フレアとくしま	パネル展示
9/26	ゆず畑手入れ	木屋平	草刈り 枝の剪定
10/3	“文化の森で世界を感じよう！”JICA海外ボランティア活動報告会&写真展示会	文化の森	パネル展示
11/14	ゆず狩り	木屋平	
12/23	鳴門教育大学国際教育オープンフォーラム インターナショナルフェスタ徳島2010～国際理解教育の姿を探る～	郷土文化会館	パネラー パネル展示
2/5～6	ワン・ワールド・フェスティバル	大阪国際交流センター	活動紹介 バザー出店
2/20	フリーデンスフェスト	鳴門市ドイツ館	パネル展示 バザー出店
3/6	にこにこ市	東林院	バザー出店
3/27	か・み・や・まるけっとvol.4	神山	バザー出店

メディアにも取り上げられる回数が増え、地球人カレンダーのお知らせが徳島新聞やタウン誌「月刊あわわ」に数回掲載されました。JICAのマスコミ派遣では、四国放送がザンビアの活動地を取材し、現地の様子が3回に渡りテレビで放映されました。また、同時期に徳島新聞でも取り上げられたため、大きな反響がありました。



▲徳島新聞に掲載された記事

【2010年度メディア掲載実績】

日付	媒体	取材対象
4/10	毎日新聞（徳島）百聞百見とくしま	TICO紹介
4/11	毎日新聞（大阪）地球村に架ける橋	TICO紹介
4/22	You tube環境チャンネル 第2回特集「地球環境問題」	プロモーションビデオ
5/19	JICA四国HP 「人」明日へのストーリー	田淵幸一郎
6月	JICA広報誌 JICA World's 「地域と世界のきずな」	TICO紹介
6/8	徳島中央テレビ「国際交流協会記念講演会」カンボジアの常識？非常識？」	瀬戸口千佳、庄田多江
6/3	ボランティア・NPO情報誌「ひと」	吉田修
9/9	ボランティア・NPO情報誌「ひと」	吉田修
12/8	ボランティア・NPO情報誌「ひと」	吉田修
12/15～17,22	四国放送 「フォーカス徳島」 「おはよう徳島」	TICO紹介、モンボシ、ンゴンベ
12/15	徳島新聞	ザンビア妊産婦ケア事業
12/23	徳島新聞 人	吉田修
1/25	JICA四国HP「ピックアップ」	TICOカンボジア
2/10	徳島新聞「頑張るNPO」	TICO
2/14	DEAR会報149号 表紙「徳島で開催されたTICO合宿で森・水・食を学びました」	第2回公募合宿
2/21	JICA四国草の根協力事業パンフレット	草の根技術協力事業
3/18	ボランティア・NPO情報誌「ひと」	吉田修
3/31	四国放送 「5時からローカル ゴジカル!」	吉田修

<組織基盤強化への取り組み>

昨年度の運営方針の転換から、1年が経ちました。事務局への常勤職員配置により前年度は広報面の充実化を図りましたが、本年度はJICA地球ひろば主催の「組織力アップ！NGO人材育成研修」等の研修に参加し、組織運営の見直し改善に努めました。国内事業の5カ年計画を策定したことで、今後の国内活動により一層の広がりを目指します。

【2010年度受講講座】

日付	セミナー名
6/8～9	組織力アップ！NGO人材育成研修 STEP1
6/21～22	組織力アップ！NGO人材育成研修 STEP2-1
7/10	第13回四国NGO研修「スタツア企画の立て方」
7/13～14	組織力アップ！NGO人材育成研修 STEP2-2
8/29	体験して学ぶ「国際理解教育・開発教育セミナー」
10/23～24	NGO・地方自治体・大学等における国際協力担当者のためのPCM研修（計画・立案コース）
12/4～5	NGO・地方自治体・大学等における国際協力担当者のためのPCM研修（モニタリング・評価コース）
3/9	NPO法人の会計基準を学ぼう

会計報告

収支の状況

～2010年4月1日から2011年3月31日まで～

(単位：円)

収支の部

会費・入会金収入	2,214,808
事業収入	482,185
助成金収入	27,789,874
寄付金収入	10,607,100
雑収入	706,182
収入合計(A)	41,800,149
前期繰越金	7,300,496
総計(B)	13,323,906

支出の部

海外事業	
ザンビア事業	25,340,340
カンボジア事業	9,834,281
国内事業	
会報・刊行物の発行	258,740
その他広報活動費	49,308
開発教育に関する事業	168,072
管理費	4,605,869
助成金返金	1,594,428
その他	9,000
支出合計(C)	41,860,038

当期収支差額(A)－(C)	-59,889
次期繰越収支差額(B)－(C)	13,264,017

貸借対照表

～2011年3月31日現在～ (単位：円)

資産の部

流動資産	
現金預金	13,344,258
流動資産合計	13,344,258
固定資産	
固定資産合計	0
資産合計	13,344,258

負債の部

流動負債	
預り金	20,352
流動負債合計	20,352
固定負債	
固定負債合計	0
負債合計	20,352

正味財産の部

当期賞味財産増加額	6,023,410
正味財産合計	13,323,906
負債及び賞味財産合計	13,344,258

*財務諸表はホームページにて公開しています。

役職員名簿

【代表理事】

吉田修

【監事】

原田栄枝

【理事】

福士庸二

渡部豪

饗場恭子

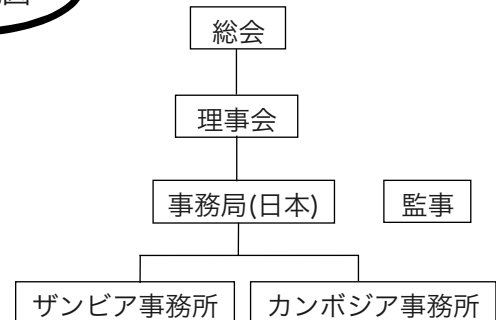
【事務局（日本）】

福士庸二（事務局長）

瀬戸口千佳（事務局員）

庄田多江（事務局員）

組織図



*2010年12月をもって、カンボジア事務所は閉じました。

団体概要

団体名	特定非営利活動法人TICO（ティコ）
設立	1993年11月23日
団体資格	特定非営利活動法人 (2004年9月6日認証)
所在地	〒779-3403 徳島県吉野川市山川町前川120-4
連絡先	Tel/Fax : 0883-42-2271 Mail : info@tico.or.jp Web : www.tico.or.jp
会員数	正会員 11名 賛助会員個人 155名 賛助会員学生 48名 賛助会員団体 17名 計231名

2011年3月31日現在



この空とつながっている、
あの人のために。

特定非営利活動法人 TICO(ティコ)事務局

2011年6月発行